

SP(スペシャル)防災士育成プロジェクトについて

- 1 防災士連絡協議会の現状・課題から今後の方向性
- 2 SP防災士育成の目的と達成すべき目標
- 3 SP防災士組織編成のプロセス
- 4 訓練科目設定の考え方
- 5 訓練内容と時間配分
- 6 訓練実施スケジュール

KUMAMOTO
合志市防災士

合志市防災士連絡協議会

防災士連絡協議会の現状・課題から今後の方向性

現 状 ⇒問題点	● 防災士資格取得後の組織としての訓練等不十分 ⇒知識・技能の低下が懸念、また個人が保有する専門的な知識・技能の活用不十分 ● 平成30年の防災士連絡協議会発足時は、啓発や訓練など5つの部会により、機能別に活動する編成としたが、部会による統制が一部滞ったことや地域とより密接に連携する組織とするため、体制を見直し、令和2年度に規約を改正して、地域ごとに4つの支部を設立(現体制)し、支部長を核心として連絡体制を確立するとともに、支部ごとに各行政区等との連携を図り、訓練・研修等を計画・実施 ⇒① 訓練等実施にあたっての人材不足 ② 市の特性に応じた訓練プログラム未整備
課 題	1 組織として防災士をいかに育成していくか（知識・技能・意識の向上） 2 育成するための体制をどのように整えるか 3 育成した以降の防災士をいかに運用していくか（市及び地区との連携）
今後の 方向性	基本となる訓練プログラムを作成し、支部ごとに訓練指導部を編成し、訓練体制を整え、訓練・研修等を実施する。また、SP防災士育成後は、市災害対策本部との連携を図るための訓練を連絡協議会として実施するとともに、各地区と連携した訓練等を各支部長計画により実施して、協議会全体のレベルアップを図る。 SP防災士育成PJ (基幹要員の養成) ➡ SP防災士育成 ➡ SP防災士 組織化

SP防災士育成の目的と達成すべき目標

目 的	1 防災組織（防災士連絡協議会）の充実 ⇒各支部ごとの防災力強化 2 防災士のスキルアップ ⇒組織全体の底上げ 3 災害時における市及び地域と連携した災害対応行動 ⇒避難所運営に関する助言や被害状況の情報収集・報告など
達成すべき 目標	● 共通事項(必須)を除き、年齢や性別、専門的知識・技能等を考慮し、個々に達成すべき目標を確立することが必要 0 共 通(必須) ① 防災士として基本的な知識や技能を保持している。 ② 合志市の災害対策本部の機能及び災害対応要領について理解しており、密接な連携ができる。 ③ 地区の連絡員として活動できる。 1 平常時 ① 地域や学校において、防災に関する講義ができる。 ② 地域や学校において、防災訓練に関する指導ができる。 2 災害時 ① 情報収集・分析により被害の軽減を図ることができる。 ② 地区の運営する災害対応について、アドバイスができる。 ③ 負傷者等への処置がおおむね実施できる。 3 災害発生後 ① ボランティア活動の概要を理解している。 ② 資材の取扱い等おおむね指導できる。

SP防災士組織編成のプロセス

年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
実施内容	1 組織の構成 ①プロジェクトチームの設立 ②基幹要員の選出 2 業務の運営 カリキュラムの作成		★基幹要員(8名) の教育開始 4月開始  6月終了		
			★1期生募集開始 10月 	1期生訓練開始 4月開始  6月終了	
				★2期生募集開始 10月 	2期生訓練開始 4月開始 
SP防災士の数		PJチーム 編成 8名	8名	12～16名程度 (各支部3～4名)	24～32名程度 (各支部3～4名)
防災士会員の勢力目標	177人	185人	215人 (+30)	245人 (+30)	275人 (+30)

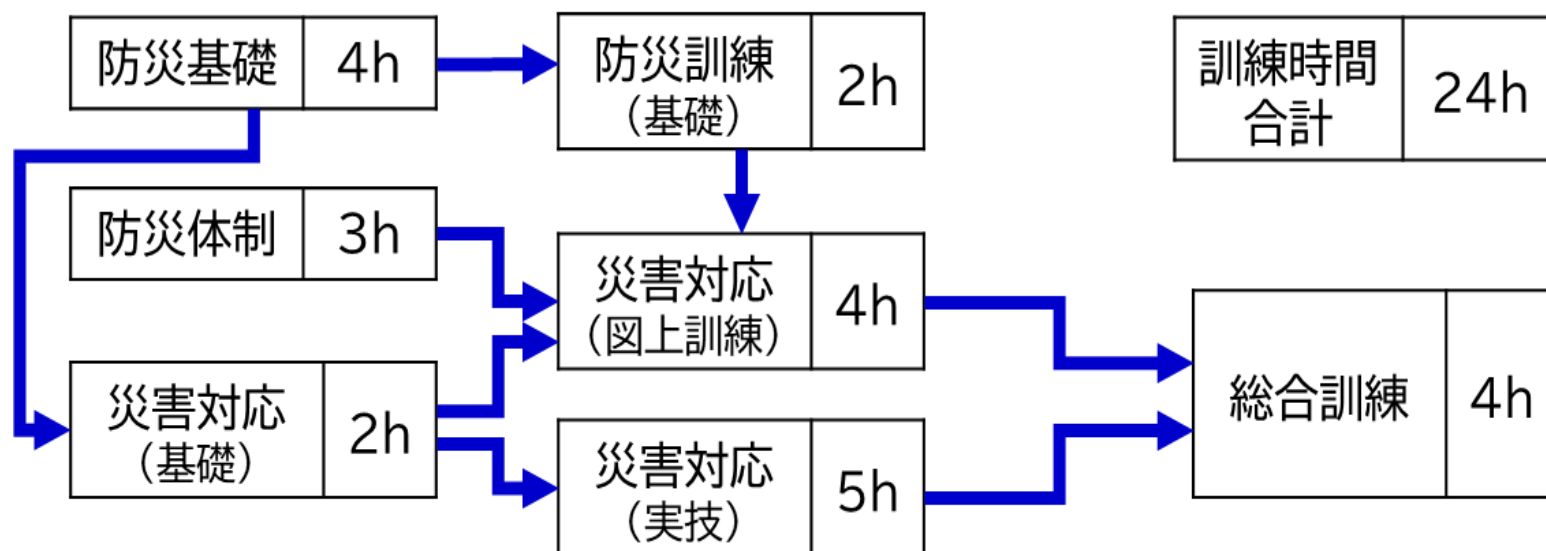
考え方

防災に関する基本的な事項をはじめ、市の災害対応体制や要領、災害の特性など踏まえ、今後の活動に必要な事項を習得させる。

なお、基幹要員への教育等（育成PJ）を通じて、科目の内容等について見直し、修正等を行い、現状に即した内容とする。特に、以下の点に留意する。

- 1 防災に関する基礎的な事項は習得しているが、資格取得時期に差があるため、復習は必要
- 2 年齢や性別、保有する専門的な知識や技能など個人差があるため、選択できる科目設定が必要
- 3 防災訓練は、図上から実動訓練まで、できる限り経験することが必要
- 4 市の災害対応要領について、災害対策本部の体制や意思決定に至るまでの情報の流れ、被害状況の処理要領についておおむね理解が必要

科目体系



訓練内容と時間配分(基準)

科目	内 容	時間	
防災基礎	1 防災に関する基礎知識(防災士教本復習、防災施設等の研修等) 2 マイタイムライン・地区防災計画作成要領	4h	24h
防災訓練 基礎	1 DIG、HUG、クロスロードの概要 2 防災訓練計画の作成・評価要領	2h	
防災体制	1 市災害対策本部の概要(組織、活動、情報処理等) 2 災害種別に応ずる対応	3h	
災害対応 (基礎)	1 情報の収集、収集した情報の要約及び情報の分析の概要 2 ボランティアセンターの運営支援要領	2h	
災害対応 (図上演習)	1 災害対策本部運営訓練の概要 2 災害対策本部運営訓練	4h	
災害対応 (実技)	1 煙体験・初期消火訓練 2 救助訓練 (資器材の取扱い、転倒家具・車両からの救出、水防法基礎) 3 応急救護(手当)訓練 (トリアージ、心肺蘇生法、ケガの手当て、傷病者の搬送) 4 訓練指導法 (教官はローテーションする。計画作成から指導まで実施)	5h	
総合訓練	1 災害対策本部運営支援及び避難所運営訓練 2 安否確認～救出・救助、応急手当	4h	

令和6年度 基幹要員訓練スケジュール

7

	6年度														
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
主要行事	11 ↔ 防災体制	24 ↔ 防災体制・災害対応	16 ↔ 防災基礎		1 ↔ 防災基礎	5 ↔ 防災訓練基礎	19 ↔ 防災訓練基礎	18 ↔ 災害対応基礎	20 ↔ 災害対応実技	7 ↔ 災害対応基礎	14 ↔ 防災基礎・災害対応実技	18 ↔ 災害対応実技	6 ↔ 災害対応図上	8 ↔ 総合訓練	
	(豪雨対応訓練)			←---→ 養成講座 (菊池)			合志市総合 防災訓練								
				基幹要員教育			←-----→ #1期生募集								
訓練予定	夜間 ↔ 1h	↔ 3h	夜間 ↔ 1h		夜間 ↔ 1h	夜間 ↔ 1h	夜間 ↔ 1h	↔ 1h	↔ 2h	夜間 ↔ 1h	休日 ↔ 3h		休日 ↔ 2h	夜間 ↔ 2h	休日 ↔ 4h
							(ありあけ 防災館研修)								
科目	防災基礎			防災基礎			防災基礎			防災対応図上					
	防災体制			防災訓練基礎			災害対応基礎			災害対応実技					
							災害対応実技			総合訓練					